

2016年10月30日

福音書からのメッセージ

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

(マタイによる福音書 5章3節)

今日この教会では、逝去者の方々をおぼえて諸聖徒日礼拝をささげます。この礼拝では、山上の説教の冒頭が読まれました。山上の説教のそれぞれの言葉は、わたしたちに何を伝えているのでしょうか。

イエス様の元にはおびただしい数の方が集まってきました。彼らは何故、イエス様の元に来たのでしょうか。それはイエス様によっていやされた人の話を聞いたからです。興味本位ではなく、イエス様に会えたら自分も変えられるとの思いで、遠くから来たのです。わたしたちが礼拝に集められるのも、聖書の言葉に聞くことも同じです。わたしたちの一番の目的は、イエス様に会い、その言葉を聞きたいということではないのでしょうか。

イエス様はその群衆の姿を見ます。彼らの表情を見て、イエス様は瞬時に悟ったに違いありません。彼らが自分を求めているということを。そしてイエス様は山に登り、この山上の説教を語られました。

イエス様は語ります。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」。イエス様が最初に発せられた言葉は、「幸いだ」という宣言でした。イエス様の元に集まった人々にとって、その言葉は希望の光だったと思います。今置かれている状況から逃れたくて、何とか一歩前に進みたくて、暗闇の中から抜け出したくて、イエス様の元にやってきました。その自分たちに向かってイエス様は「幸いだ」と宣言されるのです。

心の貧しい人よ、とイエス様は言われます。心とは霊のことです。そして貧しいという言葉はホントのスッカラン、まった



く何もない状態を示します。たとえて言うなら、台所で使うスポンジを暑い砂漠に1か月くらいほったらかしにしておく。どうなるかは想像つきますよね。カ

ピカピです。からっからです。水分など一滴もなく、どんなに絞り出そうとしても、自分の中から水分は出てきません。

わたしたちも自分の力で歩けず、前に進むことができなかつたことがあるでしょう。その状況は、からからになったスポンジと同じです。わたしたちもまた、イエス様が「霊において貧しい者」と呼びかけた、その一人ひとりなのです。

この諸聖徒日の礼拝で山上の説教が読まるのは、この礼拝に集うわたしたちがイエス様のみ言葉に飢え乾いていることを思い起こすためです。そして神さまにより頼まなければ何もできない自分自身に気づくためです。

心の貧しい者。それはわたしたちなのです。自分の力で生きていくことのできない自分に気づき、神さまにすがりつくわたしたち。その姿を見てイエス様は、「あなたたち心の貧しい者よ」と呼びかけてくださいます。からからの心に、神さまの恵みが一しづく落ちてくる。そのときにわたしたちは、歩く力を得るのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>